



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

- ① 本校では、平和学習の一つとして約6年前から、「NPO法人ひろしま点灯虫の会」が主催しているピースキャンドルの制作に参加している。また、講師を招聘し、全校行事として平和学習に取り組んでおり、児童生徒の発達段階に応じた事前学習、事後学習を行い、平和の大切さを学習している。
  - ・ 7月に本校体育館で行った平和学習（ピースキャンドル作り）では、ロウをとかして牛乳パックに入れ、各自がピースキャンドルを制作した。ピースキャンドルの側面には、事前学習で学んだことを基に平和の願いを込めてメッセージを書いたり、絵を描いたりした。完成したピースキャンドルは、児童生徒が集合した中で体育館の照明を消し、ステージに飾り点灯した。その後、児童生徒が平和について考えたこと感じたことを発表し、平和の歌をみんなで合唱した。
  - ・ 8月6日の広島原爆記念日には、本校で制作したピースキャンドルを原爆ドームの周りに他の参加校のピースキャンドルとともに並べ、点灯した。
  - ・ 事後学習では、7月の校内ピースキャンドル作り、平和の思いの発表や合唱の様子、8月6日のピースキャンドルの点灯の様子等をビデオ視聴することで「平和への願い」を新たにした。
- ② 国際理解学習として、多様な文化を受け入れる意識を育むために、スウェーデンのタルバッカ特別支援学校と姉妹校提携を結び、メールや手紙、作品などでの交流を深めている。今年度は6月にタルバッカ特別支援学校から教職員11人が本校を訪問し、交流を深めた。
  - ・ 各学期に1回は、手紙と作品での交流を行っている。クラスごとに思い思いの作品を制作し贈った。タルバッカ特別支援学校からもたくさんの作品をいただいた。交流のための作品を制作すること、届いた作品を展示スペースで見ることで、児童生徒にとって日本以外の文化を知り、多様な文化を受け入れていく意識を育むための良い刺激となっている。
  - ・ タルバッカ特別支援学校から教職員が来校し、本校の授業の様子を見学した。実際に直接交流することで、異文化理解を深め平和的・人権的な意識を養うことができた。
  - ・ 児童生徒たちは、スウェーデンの伝統文化である「夏至祭」を体験することができた。スウェーデンの民族衣装を着たタルバッカ特別支援学校の先生たちと伝統的な踊りを踊ったり、洗濯バサミリレー等のゲームを楽しんだ。スウェーデン独自の文化である「夏至祭」を通して、日本と異なる文化を体験し、楽しみながら文化の多様性に直接触れることができ、国際理解を進める一助となった。
- ③ 日常の学習において、平和教育全体計画を基に、平和を意識した授業の取組を行っている。また各クラスで「平和教育実践記録」を記入している。本年度の主な実践記録は以下のとおりである。

題材	内容
「かわいそうなぞう」 「へいわってすてきだね」 「へいわってどんなこと？」 「とびうおのぼうやはびょうきです」 「さがしています」「つるにのって」 「あおぎりのねがい」「ピカドン」 「かわいそうな象」	平和や命の大切さについて描かれた絵本の読み聞かせを聞いて、戦争の怖さや平和の大切さを学んだ。
「あおぎりのねがい」	アオギリを育てることを知った。
「ピカドン」	絵本に原爆の写真を補足してスライドにした。
「ポーポキ平和って何色」	文化祭に向けて、絵本をもとにした創作劇「平和って何色」を発表した。
絵本「ひろしまのピアノ」と被ばくピアノのCD、キーボード、爆弾の写真、気持ちカード	戦争でピアノが弾けなくなることについて、怒るカードを選択して気持ちを伝えた。大好きなキーボードが弾けなくなる嫌な気持ちを、弾いている時に布で隠して感じるようにした。
「アオギリのうた」	読み聞かせをし、戦争と平和について話をした。お話の後「アオギリのうた」を聞いて、平和の大切さを考えた。
写真	昨年度のピースキャンドル作りや平和集会、8/6の原爆ドームに並べられた自分たちのピースキャンドルの様子などの写真をスライドで見ながら、振り返りをした。
ピースキャンドル	作り方を教わり、一生懸命ピースキャンドルづくりに取り組み、思い思いの模様を描いて素敵なピースキャンドルを作り上げた。 平和へのメッセージを想いを込めて書いた。
絵	「せんそうはいやだ」という思いを絵に表した。
平和集会	平和について調べたことをまとめ、発表・朗読した。
平和集会	自分たちが考えた平和のメッセージを言ったり、アオギリの歌を歌ったり、火をともした自分たちのピースキャンドルを見たりして平和について改めて考えた。
「世界の中の広島 平和について考えよう」	世界のどこかでいつも戦争があり、まずしいくらしをしている人たちが

<p>「ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。: マララ・ユスフザイさんの国連演説から考える」</p>	<p>たくさんいる。日本にも、まずしさはあるし、差別もある。虐待やいじめもある。それをなくすのは、かんたんなことではない。戦争はいけない、と言うだけでは戦争は止まらない。差別はいけない、と叫ぶだけでは差別はなくなる。しっかりと自分の考えをつくりあげ、それを人にわかってもらえるようなことばにして伝えなければならない。その方法を手に入れるために必要なのが、学校なのではないかということを考えることができた。</p>
<p>「いのち」「サボテンの花／生きる」</p>	<p>登場人物それぞれの考え方を押し量り、命の尊さとともに支え合って生きる意味を考えた。自分がどう生きるのかについて考えるきっかけとした。</p>
<p>「雨にも負けず」</p>	<p>声に出して読みたい日本語・暗唱練習をし、文章の意味を考えることで、宮澤賢治の生き方を押し量るとともに、自分の生き方について考えた。</p>
<p>現代社会 「ケーススタディー 原子爆弾」</p>	<p>資料を読み感想を発表した。</p>
<p>「佐々木禎子さんについて」 「被爆アオギリ」</p>	<p>インターネットで調べた。熱心に取り組んだ。</p>
<p>平和公園</p>	<p>調べ学習をし、発表会をした。</p>
<p>平和についてのメッセージカード</p>	<p>各クラスで作成したメッセージカードの作品を発表した。平和についてのメッセージを考えた。さらに、原爆被害の時の様子についての紙芝居を読んだ。</p>
<p>DVD「つるにのって」</p>	<p>平和について考え、壁画を制作した。また、折鶴づくりにも一生懸命織り方を覚えて取り組んでいた。</p>

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）